

柳川勉先生を偲んで

一般財団法人MOA健康科学センター
業務執行理事 内田 誠也

医療法人財団玉川会
事務長 坂口 弘征

柳川勉（やながわつとむ）先生が令和4年12月8日に、享年66歳でご逝去されました。

柳川先生は昭和31年に大阪市でお生まれになり、昭和55年に大阪府立大学工学部電子工学科をご卒業され、昭和57年に同大学院修士課程を修了、同年に日本電信電話株式会社（NTT）基礎研究所に入社されました。平成5年に大阪大学で工学博士を取得され、平成22年にNTTエレクトロニクス株式会社に入社され、令和4年3月の退職まで勤められました。NTT基礎研究所においては、半導体レーザーの周波数安定化や非線形光学などの研究を行っておられました。専門であるレーザー技術に関しては、当時の世界トップデータを持っていたと話され、博士号の取得に際しては、突然見ず知らずの大阪大学の先生から連絡があり、博士号を取得しないかとお声掛けがあったと不思議そうに話されていました。

柳川先生は、平成3年ころより成城診療所内でキルリアン写真の研究を始められました。平成7年に当財団の成城研究室が設置されると、柳川先生は平成9年より特別研究員となられ、生物フォトンの研究が充実しました。先生はNTTの勤務外で成城の施設において研究を行うために、休日や夜の時間に実験を行っておられました。成城での研究は夜7時くらいから始まり10時過ぎに終わり、柳川先生は終電でお帰りになるという実験を平成13年まではほぼ毎週続けました。その後、熱海の生命科学研究所に移り、同様に夜の時間に実験し、車で帰るという営みを平成25年まで、積み重ねてきました。茨城県のNTTエレクトロニクス株式会社に単身赴任されている期間は、車で片道3時間かけて週末に自宅に帰られ、土曜日夜に熱海に來られて実験するという過酷な研究活動をされていました。生物フォトンの実験は暗室で行われ、全く何も見えない中、被験者は2時間以上動いてはいけないという状態での測定でした。様々な人に協力して頂きましたが、先生自ら被験者となって、お尻を半分出した状態で測定されたこともあり、研究に対して本当に高い情熱をもっておられると感じました。

生物フォトンを用いて、自然農法のキュウリの発光が慣行農法のキュウリより多いという現象の発見や岡田式浄化療法（以下、浄化療法。）による自然治癒力の高まりを評価する研究は、先進的な研究でありました。その後、当財団の理事や研究推進委員を歴任され、当財団の研究推進に大きな貢献をしていただきました。誠に有難うございました。

このような先生の興味深い研究成果は全国から研究発表の要請があり、大仁瑞泉郷まつり（伊豆の国市）をはじめとして、各地で浄化療法の効果を科学的側面から話されました。平成13年の応用物理学会の発表後、ホテルのテレビに「アメリカ同時多発テロ事件」の映像が生中継で伝えられ、同席していた皆で衝撃を覚えた事も思い出します。

先生のプライベートに関して、研究ばかりではなく、「腹式呼吸研究会」と称して折に触れてカラオケにお供させていただいたのもいい思い出です。地域活動にも貢献され、伊勢原市のMOA美術館児童作品展の立ち上げから参画され、子供たちの美育活動にも貢献されておられました。また、先生は浄化療法の研究者でしたが、根本は浄化療法の実践者でした。岡田先生の文献に徹底して求め、家庭において、がん患者に浄化療法を継続的に取り組まれ、寛解するという事例をいくつも体験されました。この

ような経験が、浄化療法の研究意欲を高め、岡田先生を世に広めたいという願いを強くされ、それらの研究成果を社会に公表されました。その成果が、平成28年に「かくされた巨人・岡田茂吉が説く 真理の科学」という一冊の本となりました。当時、臨時収入が入ったので出版に使えるという思召しと感じたと話されていました。柳川先生はこの本の中で「岡田先生の神霊科学が新たな価値観による新文明の創造である。」と語られ、読者に対し「火の洗礼として浄化を乗り越えるために、浄化療法を体験して欲しい」と強い願いを込めて書いておられました。

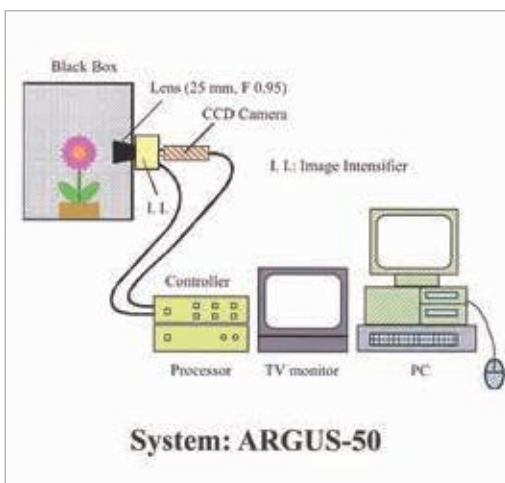
柳川先生は浄化療法の研究者であるなら、浄化療法の実践も徹底しなければならないという信念をもっておられ、私たちは見習わなければならない点であると思いました。MOA健康科学センターの研究がさらに充実し、岡田式健康法が社会に認められるように、職員一同頑張っています。今は、岡田先生のもとで真理探究の研究を行っていただけるでしょう。

【学 位】 博士（工学）（大阪大学）

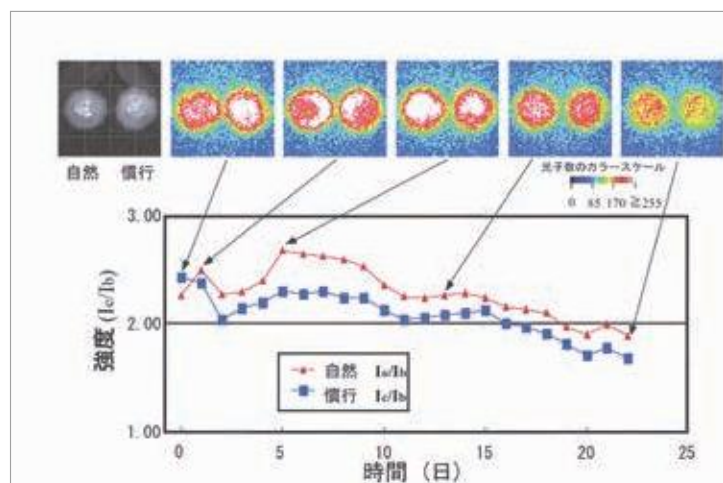
【専門領域】 生物フォトン、半導体レーザーの周波数安定化や非線形光学、波長変換、中赤外分光



著書⁷⁾



「生物フォトン実験配置図」



「キュウリ切断面における農法に依存する生物フォトン観測」

【略 歴】

- 昭和31年（1956）11月29日生まれ
（大阪市）
- 昭和55年（1980）3月
大阪府立大学工学部電子工学科卒業
- 昭和57年（1982）3月
大阪府立大学大学院電子工学専攻修士課程修了
- 昭和57年（1982）4月
日本電信電話公社武蔵野電気通信研究所入社
- 昭和57年（1982）
日本電信電話株式会社（NTT）基礎研究所
研究主任
- 平成5年（1993）
大阪大学で博士（工学）を取得
- 平成22年（2010）
NTTエレクトロニクス株式会社主任研究員
- 令和4年（2022）
NTTエレクトロニクス株式会社退職

【当財団との関係】

- 平成12-13年（2000-2001） 理事
- 平成14-令和4年（2002-2022） 研究推進委員
- 平成9-15年（1997-2003） 研究部 特別研究員
- 平成16-23年（2004-2011） 研究部 客員研究員

【研究業績】

〈論文および書籍〉

- 1) （編者）高橋清他. センサの事典. 朝倉書店. 東京. 1991（共著）
- 2) 柳川勉, 上野正博, 新田和男. コロナ放電写真に関する研究. Medical Imaging Technology. 13(1), 67-73. 1995
- 3) 柳川勉, 坂口弘征, 上野正博, 新田和男. 植物の生体機能維持力と生物フォトン観測. MOA健科報. 8, 85-92. 1999
- 4) 柳川勉, 坂口弘征, 上野正博, 新田和男. 人体の生物フォトン観測と岡田式療病術. MOA健科報. 8, 93-101. 1999
- 5) 柳川勉. かくされた巨人・岡田茂吉が説く 真理の科学. 花書院. 福岡. 2016

〈学会発表〉

- 6) 上野正博, 新田和男, 柳川勉, 町好雄. 生体におけるコロナ放電写真. 第56回応用物理学会学術講演会 1995
- 7) 坂口弘征, 上野正博, 新田和男, 柳川勉, 町好雄. 植物の生物フォトン観測. 第57回応用物理学会学術講演会 1996
- 8) 坂口弘征, 上野正博, 新田和男, 柳川勉, 町好雄. 植物の生物フォトン観測 (2). 第44回応用物理学関係連合講演会 1997
- 9) 坂口弘征, 上野正博, 新田和男, 柳川勉, 町好雄. 植物の生物フォトン観測 (3). 第58回応用物理学会学術講演会 1997
- 10) 坂口弘征, 上野正博, 新田和男, 柳川勉, 町好雄. 生命力維持機能と生物フォトン観測. 第61回応用物理学会学術講演会 2000
- 11) 坂口弘征, 上野正博, 新田和男, 柳川勉, 町好雄. 生体への刺激と生物フォトン観測. 第62回応用物理学会学術講演会 2001
- 12) Yanagawa T, Sakaguchi H, Ueno M, Nitta K. Warm moxibustion and inner energy evaluation of living bodies using biophoton. WCA 2000, 122-123. 2000
- 13) Yanagawa T, Sakaguchi H, Ueno M, Nitta K. Sustaining faculty of living functions and its biophoton observation. Journal of International Society of Life Information Science. 18(2), 423-447. 2000